



平和新聞 東京版

2021年3月25日 東京版第106号

1950年12月16日 第三種郵便物認可 (日本平和委員会)

東京版発行 東京平和委員会

〒170-0005 豊島区南大塚2-33-10東京労働会館5階

電話03-5927-1485 Fax03-5927-1487

E-mail tokyoheiwaikai@peace-21.jp

「東京都平和の日」行動

3月10日は、「東京大空襲」がおこった日です。

1945年3月10日未明、米軍のB29戦略爆撃機300余機が東京を無差別爆撃し、10万人以上の人命を奪い、100万人以上の人々を罹災させました。

東京都は1990年7月20日、「人々の相互理解に立脚した国際秩序の形成と恒久平和の実現に貢献する責務を深く認識し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓う」として、3月10日を東京都平和の日とする条例を公布・施行しました。

毎年この日に、東京都は記念式典を都庁内で開催し、10万5400体の御遺骨が納められている都立横網町公園内の東京都慰霊堂では法要が行われています。

「東京都平和祈念館(仮称)」建設をすすめる会は、祈念館建設を求める署名用紙と「東京都平和の日」ビラを参加者に毎年配布しています。

今年は、コロナ禍でもあり、参加者は少なかつたですが、約400枚を配布しました。

記・岸本正人・事務局長



東京都慰霊堂前にて
長谷川邦夫・代表理事

母が見た町屋・尾竹橋の惨状

石村和弘・代表理事

私は1946年10月生まれ、姉は1945年11月生まれです。母は小学校に入る前の私に、1945年3月10日の、荒川区町屋にある尾竹橋での空襲の体験を話してくれました。

今の都電・荒川線の町屋駅のすぐそばに住んでいた母は、焼夷弾が降り注ぐ中、隅田川に架かる尾竹橋まで逃げてきたところ、猛火に

追い詰められ火だるまになつて川に落ちた人をたくさん見たそうです。「自分も死んでもいいと思ったが、お腹に子どもがいるので死ぬわけにいかないと逃げ歩いた」と話していました。

普段は黙々とシン仕事をして夜遅くまで働き、言葉少ない母でしたが、空襲の話は私によくしてくれました。

沖縄連帯15日行動

コロナ禍で延期を余儀なくされていましたが、ようやく3月15日、今年最初の「沖縄連帯15日行動」が行われました。



動には、日本平和委員会、東京平和委員会、基地のない平和な沖縄をめざす会、婦人民主クラブ、安保破壊実行委などから16人が参加しました。

東京平和委員会は、スカイツリーの周りを超低空飛行する米軍ヘリの大型写真パネルを掲げながら訴えました。

シンガーソングライターの大熊啓さんは「確定申告して、この1年の収入の少なさを実感した。汗水流して預けた税金が基地建設や軍拡に使われるなんて許せない」と訴えました。

高校生や、東京大空襲で一命をとりとめた被災者など11人が署名をしてくれました。

大空襲被災者は「町内で生き残ったのは、私と母の2人だけだった。みんな忘れてはいけないけど、戦争は決してしてはならない」と語り、3000円の募金も寄せられました。

記・平田 誓・常任理事

米軍への無差別飛行に抗議

《わが町を戦争の拠点にするな》《平和の拠点に》

米軍ヘリの都心での無差別低空飛行の中止を防衛・

外務省に要請しました。
2月24日付け「毎日新聞」が、都心を低空飛行する米軍ヘリの実態をスクープ報道しました。

この記事を元に3月4日、日本平和委員会が呼びかけ、米軍の低空飛行問題で、防衛省と外務省への要請行動が行われました。

衆議院第2議員会館で行われた要請には、千坂日本平和委員会事務局長、岸本都平事務局長、板倉麻布へり基地撤去(実)事務局長が参加し、また、オンラインで全国各地から20人を超える参加がありました。

米軍機の低空飛行訓練に関する日米合同委員会合意では、米軍機は日本の航空法の規定の最低高度基準を用いるとしています。板倉さんは、「米軍ヘリが好き勝手に飛んでいる。米軍が低空飛行をやめないのは、日本政府が弱腰だからだ」と政府の姿勢を厳しく批判し、千坂日本平和委員会事務局長は、毎日新聞の記事を示し、「高層ビルより低く飛行しており、合意違反は明らか。それは認めるか」と質しました。

これに対し、防衛省の担当者は「コメントは差し控えたい」と、合意違反を認め

めませんでした。別の担当者
は事実関係を調査中とし
ながらも「もし誤ったこと
があれば米軍に申し入れた
い」と話しました。

「調査結果が出るまで、
米軍に飛行停止を求めら
るべきではないのか」と岸本都
平事務局長が尋ねると、
「政府としては、日米安保
があるので、そこまでは求
めていない」と答えました。

千坂日平事務局長は、低
空飛行の中止を米側に申し
入れるよう政府に強く求め
ました。(写真は毎日新聞
のYouTubeより)。



非核の火 福島の火

ヒロシマ・ナガサキ・ビ
キニ・フクシマを結ぶ「非
核の火」が、東京日光東照
宮から福島県楡葉町宝鏡寺
へ移されました。

東日本大震災と福島第一
原発事故から10年の3月11
日、宝鏡寺境内に「非核の

火」が灯されました。

この火は、広島の惨禍を
生き抜いた山本達雄さん
(故人)が、広島から持ち
帰った「原爆の火」を故郷
の福岡県で灯し続けてこ
られたもので、1988年、
長崎の原爆瓦から採った火
と合わせてニューヨークの
第3回国連軍縮特別総会に
届けられました。

その2年後、東京・上野
東照宮境内に「広島・長崎
の火」として灯されるよう
になり、30年間「核兵器を
なくし恒久平和を願う火」
として灯されてきました。

しかし、運動の継承が困
難となる中、「火」は宝鏡
寺住職の早川篤雄さんの熱
い思いで宝鏡寺境内に移設
されることとなりました。

式典で早川住職は「国と
東京電力は安全神話と札束
で住民を40年だまし続け、
平和な暮らしと地域が奪わ
れた。人類の幸福と進歩は
平和なくしては不可能です」
と述べました。

「非核の火」の隣には
「原発悔恨・伝言の碑」が
立てられ、設置者の安齋育
郎さん(立命館大名名誉教授)
は「この福島から原発事故
の教訓などを発信してい
ます」と語りました。
この「火」は「ヒロシマ・

ナガサキ・ビキニ・フクシ
マを結ぶ非核の火」として
守られていきます。

福島県平和委員会石堂祐
子事務局長は、全国の平和
委員会会員の皆さんに「コ
ロナが収束したら是非宝鏡
寺にお出で下さい」と呼び
掛けています。

記・石村和弘・東京原水協
事務局長



「非核の火」点火式

4月の催し予定

◇オンライン学習会「日米
地位協定と大軍拡・思い
やり予算」

4月14日(水) 13時30分
〜15時30分

講師

吉田敏浩さん(ジャーナ
リスト) 「日米地位協定

をめぐる動向と抜本改定
への課題」
小泉親司さん(安保中央

常任幹事) 「国民のくら
しと大軍拡・『思いやり
予算』」

*参加申し込みは、安保
破棄中央実行委員会
anpohaiki@nifty.com

◇沖縄戦犠牲者の遺骨が含
まれた土砂を辺野古埋め
立てに使わせない院内集
会

4月21日(水) 防衛省交
渉・集会 14時00分〜17
時00分

主催・総がかり・国会包
囲実行委

◇オンライン全国交流会

日本は植民地なのか?
米軍機の低空飛行中止を
求める

4月24日(土) 15時30分
〜17時30分

特別報告

★取材で浮かび上がった
都心での米軍機飛行の実
態とは? 毎日新聞記者・

加藤隆寛さん(『特権を
問う』取材班メンバー)

★低空飛行と日本政府の
姿勢、日米地位協定の問
題点 ジャーナリスト・

吉田敏浩さん(『横田空
域』など著書多数)

◎だれでも参加できます!
ミーティングID:

983 4342 0142
パスワード: 922035

会員の横顔

川田正美(文京平和委員
会理事・都平常任理事)

1944年生

強烈な体験が自分の原点
終戦直前に生まれた自分
にとって、戦争と平和に関
心を持った原点は次の二つ
かと思う。

一つは、小学校で見た映
画「ひろしま」(1953
年製作)。これは被爆の光
景があまりに残酷だとの理
由で、岡田英次、月丘夢路
らのスター出演にもかかわらず
一般興行が見送られた
由で、その惨状のリアルさ
は年少者には衝撃であった。
午前中に上映されたので、
みな昼食がノドを通らなかつ
たほどである。日教組プロ
が総力をあげ、広島市民も
エキストラで参加した国民
的作品であった。

もう一つは、同じころ上
野で見た光景である。学校
の休みに親子で汽車に乗り
都会へ行くのは無上の楽し
みだった。だが到着して目
にしたのは、西郷さんの銅
像の周りにたむろする、髪
はボサボサ目ばかりギラギ
ラした浮浪者の群れ。そこ
に投げられた食べ物を獲よ

うとつかみあいとなり、辺
りもうもうと舞い上がる砂
ぼり。こわくて親にしが
みついていた。そして街角
には、白装束に黒メガネの
傷痕軍人が立ち、彼らが奏
でるアコーディオンから流
れる物悲しい旋律がいつま
でも耳に焼き付いた。

それら戦争の残した爪痕
は、柔らかな身心に食い込
んできていた。いまの政治
家のほとんどは戦争を知ら
ない世代というが、ナマの
体験を知らぬことはこわい。
アベ(シンゾウ)先生や
「稲田」朋美ちゃんは「ひ
ろしま」の映像を見ていな
いのではないか。

*ユニオン出版ネットワー
ク機関誌『Forum』掲
載「ピースウォーカー一代
記」①2016年から転載。

編集後記

◇行動記事のほかに、今回
は「会員の横顔」を紹介し
ました。

旧ソ連の作家。イリヤ・
エレンブルグ(1891〜
1967年)は「平和のた
めの運動は、波立つ心の深
みに始まり…」とうたいま
した。皆さんの、平和のた
めの行動の一步を編集部に
お寄せください。